



一つ目の転機は29年前、知的障害のある長男の出産でした。二つ目が19年前に夫が病死したことです。三つ目、今から16年前に私自身が病気になることです。

一つ目から話します。27歳で長男を産みました。その4年前に生まれた長女の時に比べて産後に何も言われなかったのを少し変に思い、回診に来た先生に尋ねたら「恐らくダウン症」と。「一生、介護するしかない」など先々への不安が膨らみ、気を失ったほどで、今から考えると「想像が高じた絶望」という感じですね。実際は、ゆっくり、

●長男には「人と違うことを恐れなくていい」と

私、車いすに乗っています。普段は講演のほか、企業で障害をもった方々の働きやすい環境づくりのアドバイス、社員の皆さんの心のケアなどのサポート、他に、ユニバーサルデザイン、バリアフリーの取り組みへの監修、カウンセリングなどをやっています。

本日は、これまでにどんなことをしてきたのかを話します。56年間生きてきた人生の中で、歩けなくなった今のほうが「私は幸せだなあ」と、心の底から思います。なぜかと言えば、56年間の中で三つの大きな転機があり、それぞれに辛かったけれど、それがあったからこそ「今、幸せ」って思えるのです。

スライドで自己紹介をしますと、右から長男の良太、長女、そして私の3人の家族で暮らしています。病死した夫を入れると元4人家族です。

講演

人生、山あり谷あり 家族あり

カウンセラー／作家 岸田ひろ実



2024年11月2日に知恩院で開かれた「おてつき運動婦人研修会」での講演要旨を採録しました。



岸田ひろ実（きしだ ひろみ）

1968（昭和43）年、大阪市生まれ。1987（昭和62）年、千里金蘭短期大学英文科卒業。2009（平成21）年、心理セラピストとして活動開始。2011年、株式会社ミライロの講演会講師の職を経て、2021年から独立。木口福祉財団理事。CTC未来財団理事。著書に『人生、山あり谷あり家族あり』（新潮社）、『ママ、死にたいなら死んでもいいよ』（致知出版）。40歳の時の大動脈解離の後遺症で車いすの生活に。自身の経験から人生の困難や障害との向き合い方を伝える活動を全国で展開中。